



明治時代から続く豊山町の伝統行事／

特集

ついたち 重ねの朔日



八所神社前の道路は大賑わい

重

ねの朔日(ついたち)は、毎年、八所神社で行われている厄除けの行事です。

実は、明治時代から続いている歴史ある行事ということをご存じでしょうか。

今回の特集では、重ねの朔日と、町指定文化財を保有する八所神社についてご紹介します。

始まりは明治初期

明治初期「厄年を迎えた人が1年を無事に過ごせるように」という願いを込めて、正月1か月を1年、旧暦2月1日(今の2月下旬から3月上旬)を翌年の正月に見立てて、鏡餅を氏神様にお供える慣わしができたのが始まりです。

伝統を守りつつ、時代に合わせた形で今も行事が続いています。当日は多くの参拝者で賑わい、お祭りの雰囲気を楽しむことができます。

Q1. 何をする行事ですか？

A1. 厄年の人が自身の厄除けのためお菓子やお酒を配って八所神社まで練り歩きます。

後厄の氏子が天狗にふんし厄年(25、41、42、43歳の男性)や還暦(61歳)・喜寿(77歳)・米寿(88歳)を迎えた人たちが宿元から神社まで練り歩きます。

無事な1年を自分の厄を周りの人に分けるため、木遣唄を歌い道中にお菓子を配りながら歩きます。沿道には多くの人のお祝いに訪れ、大変賑わいます。

今年の重ねの朔日

3/2(日)9時頃

八所神社周辺にて行われます

Q2. なぜ天狗が歩くの？

A2. 豊山に伝わる天狗伝説が由来です。

昔、豊場の長寿寺の裏の森の大きな木の上に天狗がいたという伝説があります。天狗(猿田彦)は厄除けや開運の力があるとされ、厄を払いながら行列を先導していくという意味があります。



豊山町
マスコット
キャラクター
「地空人くん」

Q3. なぜ手ぬぐいの色が違うのですか？
A3. 年齢などで色が分かれています。

練り歩く人たちは、色の違う手ぬぐいを巻いています。年齢などで色が異なりますので、ぜひ注目して見てください。

- | | |
|----------------------|-------------|
| ○ 赤 …前厄(41歳)、還暦(61歳) | ○ 黄…喜寿(77歳) |
| ○ ピンク…本厄(25歳、42歳) | ○ 紫…米寿(88歳) |
| ○ 青 …後厄(43歳) | ○ 白…白寿(99歳) |

Q4. 初めての人や子どもでも楽しめますか？
A4. もちろん楽しめます。
ぜひ見に来てください。

重ねの朔日では、無形文化財「木遣」「神楽」も見ることができます。八所神社の前道路では、子どもから大人まで、朝から多くの人がお祝いに訪れます。
豊山町の伝統文化にふれながら、春のお祭りとも言える、歴史ある行事の雰囲気を楽しんでください。